



作家名	作品名
01 三澤 遥	Hareza池袋ロゴデザイン
02 岡崎 乾二郎	ミルチス・マショル/Mirsys Majol/Planetary Commune
03 三沢 厚彦	Bird 2019-01B
04 テラダモケイ 寺田 尚樹	1/10 Hareza Ikebukuro
05 西野 康造	宙をゆく 2020
06 秋山 陽	地質時代
07 久住 有生	土=人
08 西山 美なコ	♡Welcome back★Lady♡
09 金氏 徹平	Hard Boiled Daydream (Restroom)
10 久門 刚史	crossfades #5 Found Numbers
11 野老 朝雄	RHOMBUS CONNECT SEATING
12 山田 弘子	Stroke/縋文/コンポジション

Hareza池袋に設置されている作品No.03～11のアートワークは、公益財団法人彫刻の森芸術文化財団監修の元、設置されています。

Hareza池袋のアートワークについて

公益財団法人
彫刻の森芸術文化財団
CHOKOKU-NO-MORI ART FOUNDATION

エントランス1階には、かつてコンクリートの下には大地があり、自然に満ちあふれていた。その記憶を土で作った陶器の秋山の作品が、大地から隆起して姿を表す。そして、西野が制作したモビール彫刻により、天井から吊るされた有機的に動く彫刻が、太古から変わらぬ風の流れを視覚化させ、自然との共生を表現している。

さらに、卓越した技術を持つ久住は、武蔵国豊島郡として栄えた時代の建造物に多用したであろう、左官技術により壁画でこの土地の人の技術と「歴史」を伝えている。

7Fオフィスロビーの久門が制作した壁面作品は、3種類の石には円周率が刻まれており、人々が日々の営みを刻みながら、未来へと永遠に広がり続ける中の、この場所、この瞬間を切り取っている。

スカイラウンジには、東京2020オリンピック・パラリンピックエンブレムのロゴマークも制作した野老によるアートファニチャー。レガシーとして記憶に残り、この建造物が重ねる時の重みを体感してほしい。

Hareza Tower 1階のトイレには現代美術作家、西山、金氏によるポップなアートで空間を包み込み、ビジネスシーンの日常とは異なる非現実的な世界に導く。

東京建物Brillia HALL 2Fラウンジには、現代彫刻家三沢による愛嬌のある鳩が設置され、館内の新たなシンボルとして訪れる人々を迎い入れ、新たな待ち合わせ場所を実現した。

また、1階通路にはScrap and Buildの都会のイメージを、寺田の模型による手法を取り入れたユニークなアートで繰り返される街の創造を想起させる。

Hareza池袋において、様々なエンターテイメントやビジネスシーンが繰り返され、私達が想像を超える時代がここで創り出されることになる。日々映し出される景色とアートが重なり合い、常に「現在」が「歴史」となり、新たな「未来」がうまれるという連鎖をアートを通して感じてもらいたい。